

カワラゴミムシ 鞘翅目 (コウチュウ目) カワラゴミムシ科

Omophron aequalis Morawitz, 1863

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



成虫 青森県つがる市 2006.6.30/撮影：林 成多

■**選定理由**：全国的に減少している種であるが、県内では記録そのものが少なく、生息状況の調査が必要。

■**特徴**：体長5–7 mm。円形の体に長い足を持ち、背面には顕著な斑紋がある。砂丘や河川敷、湖畔など砂地環境に生息する。夜行性で灯火に集まる。行動は俊敏で、歩くのが速い。

■**分布** 県内：米子市。特徴的な種でありながら、記録がほとんどない。海岸沿いに広く生息している可能性もある。県外：北海道、本州、四国、九州；朝鮮半島、沿海州、中国。

■**保護上の留意点**：まず現状の把握として、分布状況を確認する必要がある。

■**文献**：206.

執筆：林 成多・桐原佳介

ヒメボタル 鞘翅目 (コウチュウ目) ホタル科

Luciola parvula Kiesenwetter, 1874

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



大山山頂 2007.7.23/写真：新日本海新聞社(関理恵子)

■**選定理由**：生息地が限られ局地的であるが、ランクを判定できるだけの情報が得られていない。

■**特徴**：体長6–10 mmで、ゲンジボタルやヘイケボタルより小型。前胸は淡い赤色で、逆三角形の黒い模様がある。雌は後翅が退化しており飛翔できない。発光は、強い黄金色の光を短い間隔で明滅させる。幼虫は陸生で、林などの地表で生活する。成虫も適度な湿度のある林などに生息し、5–7月にみられる。大山 (1709 m) の山頂にも生息しており、国内でもっとも高標高の生息地である。

■**分布** 県内：鳥取市、倉吉市、日南町などや大山山頂で確認されているが情報不足。その他にも局地的に分布していると思われる。県外：本州、四国、九州 (日本固有種)。

■**保護上の留意点**：分布や生態の調査、および生息地の林の保全が必要。

■**文献**：186, 209.

執筆：川上 靖

ジョウカイボン 鞘翅目 (コウチュウ目) ジョウカイボン科

Lycocerus suturellus (Motschulsky, 1860)

鳥取県：その他の重要種 (OT)

環境省：—



雌 鳥取市(旧佐治村)栃原 2004.6.5/撮影：奥島雄一

■**選定理由**：普通種であるが、鳥取県東部地域が東方に分布する基準亜種 *L. s. suturellus* と西方に分布する西日本亜種 *L. s. luteipennis* の境界となっており、その付近では形態的に不安定で亜種の移行帯を形成している。生物地理学上、興味深い例である。

■**特徴**：体長14–21 mm程度で雄よりも雌の方がやや大型。全国的に見ると色彩変異は多様だが、鳥取県産の個体は上翅が一様に薄茶から茶褐色である。近縁種との区別や亜種の正確な同定には雄交尾器または雌腹板を検するのが無難である。成虫は初夏に出現し、各種植物上で見られる。

■**分布** 県内：ほぼ全域に分布。智頭町以東の地域で両亜種の間中型が見られるが、大山周辺では完全に西日本亜種となる。県外：北海道から屋久島。基準亜種と西日本亜種の間中型は兵庫県西部、岡山県東部、四国でも見られる。伊豆半島周辺には、伊豆亜種 *L. s. izuensis* が分布する。

■**保護上の留意点**：県東部の移行帯の集団のある樹林地の保全が重要。

■**文献**：162, 163, 164.

執筆：奥島雄一

ヒメシマチビゲンゴロウ 鞘翅目 (コウチュウ目) ゲンゴロウ科
Nebriporus nipponicus (Takizawa, 1933)

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



琴浦町(旧東伯町)野井倉 1995.11.3 日暮卓志採集/撮影:永幡嘉之

- 選定理由**：西日本では希な種であるが、県内では記録そのものが少なく、生息状況の調査が必要。
- 特徴**：体長4-5 mm。体型は逆卵型で、背面には細かな縞模様がある。河川の中・上流域に生息する。泥の多い川には生息せず、川底に礫と砂が堆積するような川を好む。生息場所では、川辺の淀みにある石や落ち葉を動かすと見つけやすい。
- 分布** 県内：大山山麓。特徴的な種でありながら、記録がほとんどない。近年の大山山麓の水生甲虫の調査では再確認されなかった。県外：本州、四国。東日本の記録が多い。
- 保護上の留意点**：まず現状の把握として、分布状況を確認する必要がある。
- 文献**：143, 150.

執筆者：林 成多

マルガタゲンゴロウ 鞘翅目 (コウチュウ目) ゲンゴロウ科
Graphoderus adamsii (Clark, 1864)

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



岩美町院内 1994.10.16 永幡嘉之採集/撮影:永幡嘉之

- 選定理由**：かつては普遍的に分布していたが、近年激減している。
- 特徴**：中型種。水草の豊富な止水域に生息し、灯火に飛来することがある。幼虫は夏季に生育し、水中で成虫越冬すると考えられる。
- 分布** 県内：かつては平野部の広域分布種であったと考えられるが1990年代以降の確認地は岩美町・大山町各1カ所。県内での現状は不明であり、緊急に生息実態調査を実施する必要がある。県外：北海道、本州、四国、九州；アジア東部。
- 保護上の留意点**：ゲンゴロウに同じ。本種の他にも、シマゲンゴロウ (以上ゲンゴロウ科)、ガムシ (ガムシ科) は激減しており、早急な動向の調査が必要で、すでに対策が必要な段階になっている可能性が高い。
- 文献**：—

執筆者：永幡嘉之

クログンゴロウ 鞘翅目 (コウチュウ目) ゲンゴロウ科
Cybister brevis Aubé, 1838

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



山形県 2010.12.1/撮影:永幡嘉之

- 選定理由**：大山がタイプ産地。大山での個体数が少なく、近年のトラップ調査では確認されなかった。
- 特徴**：中型のゲンゴロウ。生態はゲンゴロウとほぼ同じだが、環境選択性がやや広く、より浅く植物の豊富な水域にも生息する。休耕田や水路などでも発生するため、ため池への依存度はゲンゴロウに比べるとやや低い。
- 分布** 県内：現状把握が急務。広く分布していたはずの鳥取平野の大部分では1990年代すでに確認できず、東部および中部の丘陵地では当時は個体数が比較的多かったが、捕食者となるブラックバスなどの外来魚の拡散が進行しているため、地域的絶滅が進む可能性が高い。県外：本州～九州；中国、朝鮮半島。国内各地でゲンゴロウにやや遅れて減少が進行、とくに都市周辺で顕著。
- 保護上の留意点**：基本的にはゲンゴロウに同じだが、水田脇の水路など、より浅い水域への依存性が高いため、ため池と周囲の水域との連続性を保つことが必要となる。近年の大きな減少要因は外来魚の拡散。
- 文献**：—

執筆者：永幡嘉之

コガタノゲンゴロウ 鞘翅目 (コウチュウ目) ゲンゴロウ科

Cybister tripunctatus orientalis Gschwendtner, 1931

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)



雄 湯梨浜町久見 2006.9.13/撮影：中前雄一郎

■**選定理由**：個体数の多い普通種であったが、2002年には県内で確認された場所が3カ所になった。全国的にも絶滅とみられる地域が多い。

■**特徴**：平均体長が26-27 mmの中型のゲンゴロウである。腹面は黒色から黒赤色まで変異がある。おもに水田で産卵し、幼虫はオタマジャクシ等を捕食する。蛹化は畦の土中で行われ、羽化成虫も水田ですごす。田の水抜き後は越冬水域に移動し、その後は春までほとんど移動しない。

■**分布** 県内：県内全域の平野部。県外：本州，四国，九州，沖縄。

■**保護上の留意点**：餌の多い耕作田が重要であり、生活史に合わせた水管理，土畦の維持や減農薬が必要である。越冬は同じ水域内でも条件のよい場所に集中するため，水草があり，水質のよい池等を多くつくる必要がある。

■**特記事項**：鳥取県特定希少野生動物。

■**文献**：91, 92, 93.

執筆：國本洗紀

ゲンゴロウ 鞘翅目 (コウチュウ目) ゲンゴロウ科

Cybister japonicus Sharp, 1838

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



山形県 2010.12.1/撮影：永幡嘉之

■**選定理由**：生息地の分断と孤立化が進行しており絶滅が危惧される。

■**特徴**：大型のゲンゴロウ。止水域，県内ではおもに農業用ため池に生息し，春に水草に産卵，幼虫は岸辺の土中で蛹化する。幼虫は時に水田にも拡散する。水中で成虫越冬。成虫は夜間活発に飛翔し分散する。

■**分布** 県内：現状把握が急務。1990年代には生息地が多かった岩美郡では，捕食性の外来魚の拡散により2000年頃に激減，地域的絶滅の可能性がある。県外：北海道～九州；アジア東部。日本全国で絶滅または激減。

■**保護上の留意点**：ため池は水位変動が激しいことから，生息環境を孤立させず，水草が豊富で連続性のある複数の水域を維持する。ため池改修の際にはコンクリート護岸を避ける。ブラックバス，ブルーギル，アメリカザリガニ，ウシガエルのいずれとも共存できないため，これらの外来種のモニタリングを継続し，確認の際はすみやかに駆除することにより進入を防ぐ。

■**文献**：—

執筆：永幡嘉之

オオクワガタ 鞘翅目 (コウチュウ目) クワガタムシ科

Dorcus curvidens binodulosus (Waterhouse, 1874)

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



雌 鳥取市久松山 2007.6.2 (和田年史採集)/撮影：川上 靖

■**選定理由**：飼育個体が逃げ出すことによる分布・遺伝子の攪乱が危惧されることと，生息環境の面積的な減少が進んでいること。

■**特徴**：成虫は6-9月に出現，夜間に樹液に集まる。自然度の高い二次林を中心に，山間部の渓谷林にも生息しているが，中国地方では分布の主体は平野部～低山にあり，東北地方のようにブナ林で採集された例はない。本県では食樹としてソメイヨシノが知られる。

■**分布** 県内：県内全域の平野部から低山地。報告された採集記録は，鳥取市，三朝町，南部町（西伯町），米子市。未発表の採集例は八頭町，岩美町。県外：北海道，本州，四国，九州；朝鮮半島，中国。

■**保護上の留意点**：生息地の林を孤立させずに連続性を保つこと。遺伝子汚染や自然分布の攪乱を防ぐため，本種や外国産の昆虫を野外に放さないという啓発活動を進めること。生息情報が自然分布か否かの検証も不可欠。

■**文献**：62, 149, 178.

執筆：永幡嘉之・川上 靖

ダイコクコガネ 鞘翅目 (コウチュウ目) コガネムシ科
Copris ochus Motschulsky, 1860

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



兵庫県加美町三谷 1985.10.10 永幡嘉之採集/撮影：永幡嘉之

■**選定理由**：県内では現在すでに確実な生息地が知られていない。
 ■**特徴**：食糞性コガネムシで、雄の大型個体は長い角をもつ。放牧地のウシの糞に集まり、草丈の低い明るい草原を好む。現在知られる近県の生息地は、いずれも在来のススキ草原を利用したもので、人工の牧草地では確認されていない。牛糞に依存しており、野生動物の糞に依存した個体群は知られず、放牧の数年の休止が絶滅に直結することから、国内では激滅している。ただし、縄文時代の遺跡から出土したため在来種とする説が有力。また、牛に投与する抗生物質が間接的に影響を与えるという指摘がある。県内では1990年代の全域での調査でもすでに発見できなかった。中国地方に残る生息地は数カ所のみ。

■**分布** 県内：過去には大山山系、鳥取市 (旧佐治村)。現在は確認できる産地がない。県外：北海道、本州、四国、九州；アジア北東部。全国で激滅。

■**保護上の留意点**：残存生息地の有無の確認が必要である。

■**文献**：173.

執筆：永幡嘉之

ミヤマダイコクコガネ 鞘翅目 (コウチュウ目) コガネムシ科
Copris pecuarius Lewis, 1884

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



長野県産/撮影：永幡嘉之

■**選定理由**：牧場の閉鎖に伴って生息環境が消失した。

■**特徴**：ダイコクコガネよりもやや小さく、黒色で若干の光沢がある。山地の落葉樹林に生息、日陰を好み、広葉樹の林内や、牧場の林縁部でウシ、シカなどの糞に集まる。

■**分布** 県内：日南町多里、大山山系で記録があるが、追跡調査では採集されておらず (水田国康氏私信)、現在確認できる生息地はない。県外：本州、四国；シベリア。基本的には自然林でシカやカモシカの糞に依存して生活しているため、分布はこれら大型草食獣の天然分布とよく一致する。

■**保護上の留意点**：中国山地におけるシカの顕著な増加に伴って、今後は分布を再拡大する可能性があり、モニタリングを継続する必要がある。

■**文献**：—

執筆：永幡嘉之

オオチャイロハナムグリ 鞘翅目 (コウチュウ目) コガネムシ科
Osmoderma opicum Lewis, 1887

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



雄 鳥取市河合谷高原 2004.7.17/撮影：鶴崎展巨

■**選定理由**：県内の生息域が限られ、近年の確認例が少ない。

■**特徴**：体長30 mm内外の大型の甲虫。体はややつやのある黒褐色。ブナ帯以上の山地の広葉樹・針葉樹の古木の樹洞で発生する。7-9月に出現する成虫には雌雄ともに芳香がある。成虫は日中に樹洞の周辺や徘徊・飛翔するが、通常、樹液や花には集まらないため発見しづらい。成虫羽化までに2年かかると考えられている。

■**分布** 県内：大山山系、鳥取市 (辰巳峠、河合谷高原)、扇ノ山、氷ノ山。県外：本州、四国、九州、屋久島など。日本固有種。

■**保護上の留意点**：古木や立ち枯れなどを伐採・除去しないで維持することが重要。

■**文献**：1, 41, 167.

執筆：鶴崎展巨

アカマダラハナムグリ (アカマダラコガネ) 鞘翅目 (コウチュウ目) コガネムシ科
Anthracophora rusticola (Burmeister, 1842)

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：情報不足 (DD)



鳥取県八頭町産 2009.6.6 / 撮影：小林佳崇

■**選定理由**：全国的に減少傾向にあるとされ、猛禽類の営巣等を示す指標生物としての価値がある。県内からの記録はきわめて少ない。

■**特徴**：ビロウド状の黄褐色毛に覆われた赤褐色の体色をもつ体長15-20 mm前後のハナムグリ。本種に似たコガネムシ種はなく識別は容易。近年、幼虫が猛禽類、コウノトリ、カワウなどの巣から見つかることが明らかにされ、猛禽巣からは頻度高く発見されている。県内からは倉吉市、八頭町からの1例ずつが知られるのみ。

■**分布** 県内：倉吉市、八頭町。県外：北海道南部、本州、四国、九州、屋久島；モンゴル、中国、ロシア極東地域、朝鮮半島、濟州島。

■**保護上の留意点**：平地～山地の落葉広葉樹林より得られることが多い。県内での生息実態については不明。継続的な採集・調査が望まれる。

■**文献**：82, 79, 154, 176.

執筆者：佐藤隆士

ヨコミゾドロムシ 鞘翅目 (コウチュウ目) ヒメドロムシ科
Leptelmis gracilis Sharp, 1888

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



成虫 鳥根県出雲市 2005.10.27 / 撮影：林 成多

■**選定理由**：河畔植生の豊富な河川や水質のよい池に生息するため。とくに下流域での生息環境の減少・消滅がみられる。

■**特徴**：体長2.6-3.0 mm。体型は細長く、前胸背板に顕著な横溝がある。足が長く、大きな爪をもつ。河川の中・下流域やため池に生息する。川底に沈んだ流木表面やツルヨシの根元に生息する。かつてはきわめて希少な種とされていたが、近年の調査で河川などに広く生息することが判明した。各生息地での個体数は少ない。

■**分布** 県内：千代川水系、日野川水系。河床礫が大きく移動するような洪水が減り、川辺にツルヨシが繁茂する河川が増えている。本種にとっては良好な生息環境が増えている可能性がある。県外：本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：大規模な河川改修は本種の生息環境を破壊するので、対策が必要になる。

■**文献**：20, 218, 219.

執筆者：林 成多

セマルヒメドロムシ 鞘翅目 (コウチュウ目) ヒメドロムシ科
Orientalmis parvula (Nomura & Baba, 1961)

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



成虫 大山町 2007.3.10 / 撮影：林 成多

■**選定理由**：全国的な希少種。県内でも数カ所で確認されているのみで、調査が必要である。

■**特徴**：体長1.5 mm前後。体型は逆卵形で、上翅に4つの斑紋がある。河川の上・中流域において、流れが緩く、川底にツルヨシの根が露出している場所に生息する。きわめて微少であるため、本種の存在を意識して採集を行わないと発見しにくい。

■**分布** 県内：日野川上流と阿弥陀川下流域。県外：本州、九州。

■**保護上の留意点**：本種の生息微環境はさまざまな条件が揃わないと形成されにくい。河川内に本流だけでなく分流や細流があるなど、同じ地点内に多様な環境が存在できることが重要である。

■**文献**：18, 20, 172.

執筆者：林 成多

ハガマルヒメドロムシ 鞘翅目 (コウチュウ目) ヒメドロムシ科
Optioservus hagai Nomura, 1958

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：情報不足 (DD)



成虫 大山町 2007.3.10 / 撮影：林 成多

- 選定理由**：全国的な希少種。県内でも数カ所で確認されているのみで、調査が必要である。
- 特徴**：体長2.2–2.5 mm前後。体型は楕円形で、背中側に強く膨らむ。上翅に4つの斑紋がある。河川の上・中流域において、流れが緩く、川底に砂が堆積している場所に生息する。まれに溪流でも見つかることがある。
- 分布** 県内：日野川水系上流と阿弥陀川下流域。 県外：本州（島根，広島，山口県），九州。
- 保護上の留意点**：本種が多産する場所は限られており，河川内に本流だけでなく分流や細流があるなど，同じ地点内に多様な環境が存在できることが重要である。
- 文献**：18, 20, 159.

執筆：林 成多

ケスジドロムシ 鞘翅目 (コウチュウ目) ヒメドロムシ科
Pseudamophilus japonicus Nomura, 1957

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



成虫 鳥根県出雲市 2006.7.15 / 撮影：林 成多

- 選定理由**：河畔植生の豊富な河川に生息するため。とくに下流域で生息環境の減少・消滅がみられる。
- 特徴**：体長5 mm前後。日本最大のヒメドロムシ。体型は細長い楕円形で，上翅の奇数間室に毛が密に生えている。足が長く，大きな爪をもつ。河川の上～下流域に生息する。成虫・幼虫ともに川底に沈んだ流木表面やツルヨシの根元に生息する。
- 分布** 県内：日野川水系。県内の他の水系にも生息している可能性が高い。 県外：本州，九州。
- 保護上の留意点**：大規模な河川改修は，本種の生息環境を破壊するので対策が必要になる。上流や河畔林からの流木の供給が必要であり，より自然な河川環境を復元することが望ましい。
- 文献**：20, 218, 219.

執筆：林 成多

トオヤマシラホシナガタムシ 鞘翅目 (コウチュウ目) タマムシ科
Agrilus venticosus Fairmaire, 1888

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



佐治村高鉢山 1975.8.10 / 撮影：山地 治

- 選定理由**：国内では本州の数地点で記録されているが，いずれの地でも希少である。鳥取市高鉢山は現在のところ南限の既知生息地。
- 特徴**：体長12 mm 内外，金緑色で光沢がある。日本産ナガタムシ中最美しい種で同時に最希種の一つでもある。国内では群馬県と鳥取県からの標本で記載されたがその後，中華人民共和国から記載された種と同種とされた。鳥取県高鉢山からはエゾエノキ衰弱木から複数の個体が確認されたが，伐採が終わってからの報告はないようである。幼虫はエゾエノキの枯死部を食べるものと思われる。
- 分布** 県内：鳥取市佐治町高鉢山の南斜面標高900 m付近の天然林。 県外：富山県，新潟県，福島県，群馬県；中華人民共和国。
- 保護上の留意点**：本種が依存しているエゾエノキを含む天然林を保護する必要がある。
- 文献**：2, 98.

執筆：山地 治

ジュウクホシテントウ 鞘翅目 (コウチュウ目) テントウムシ科

Anisosticta kobensis Lewis, 1896

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



摂食中の成虫 (米子市産；飼育) / 撮影：星川和夫

- 選定理由**：全国の汽水に隣接するヨシ原に広く分布するが、どこでもきわめて局地的にしか発生を見ない。生息地が人間活動域と重複している。
- 特徴**：成虫体長が約4 mm程度の中型テントウムシ。体は扁平で長く、一見ハムシのような体型をしている。汽水に隣接するヨシ草原に生息し、とくに水際に多い。年数回羽化し成長は速い。他のテントウムシと比べ、成虫はよく飛ぶ。幼虫はヒメカメノコテントウなどと同じ体型だが、粘性のある尾脚を用いて後退する行動がよく見られる。県内では、現在のところ米子市彦名から知られるのみ (2007年まで確認、以後は未調査)。しかし、日本海側に点在する汽水湖周辺のヨシ原から発見される可能性は高い。
- 分布** 県内：米子市彦名。 県外：北海道，本州，九州；中国。
- 保護上の留意点**：生息環境自体が激減しており，ヨシ原の保全が重要。
- 文献**：84, 180.

執筆者：星川和夫

シラユキヒメハナカミキリ 鞘翅目 (コウチュウ目) カミキリムシ科

Pidonia dealbata Kuboki, 1981

鳥取県：その他の重要種 (OT)

環境省：—



雌 / 撮影：山地 治

- 選定理由**：近畿北部から中国山地東部にかけて分布する種であり，産地は限られている。鳥取県は基産地であり分布の西限。
- 特徴**：体長7-8 mm，中部地方に分布するムネアカヨコモンヒメハナカミキリの置換種と考えられていて斑紋の退行が見られる。梅雨期出現しブナ帯のツルアジサイ等日陰の花に集まる。
- 分布** 県内：大山町大山・鳥取市佐治町高鉢山・智頭町八河谷。 県外：兵庫県北部・岡山県北部・京都府北部・滋賀県。日本固有種。
- 保護上の留意点**：樹相の貧弱な林では見られない。原生林の環境でなければ生息できない種と思われるので原生状態の林を残すことが必要，高鉢山では伐採終了後確認個体数が激減した。
- 文献**：83, 153.

執筆者：山地 治

クロサワヘリグロハナカミキリ 鞘翅目 (コウチュウ目) カミキリムシ科

Eustrangalis anticereductus Hayashi, 1958

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



鳥取市佐治町高鉢山産 1979.6.2 / 撮影：山地 治

- 選定理由**：北海道から九州まで分布するがいずれの生息地も範囲が狭く，個体数もわずかである。高鉢山は北海道を除けば日本海側の唯一の産地であるが，1980年以降の生息状況は不明である。
- 特徴**：体長15 mm，オレンジ色の細長い体形をもつ。他のハナカミキリに比べかなり速く飛翔し，原生林の暗い林内の花に飛来する。成虫は6月に現れ，ハクウンボクなどに訪花する。食樹としてキハダが知られている。
- 分布** 県内：鳥取市佐治町高鉢山南斜面。 県外：北海道・本州・九州。
- 保護上の留意点**：生息地域の原生林の保護。
- 文献**：153.

執筆者：山地 治

アカネクスジトラカミキリ 鞘翅目 (コウチュウ目) カミキリムシ科
Cyrtoclytus monticallisus Komiya, 1980

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



兵庫県美方郡温泉町肥前畑 1993.5.10/永幡嘉之

■**選定理由**：鳥取市高鉢山がタイプ産地。その後、近畿北部から中国地方にかけての数地点で記録され、さらに中華人民共和国からも報告されたが、いずれの産地においても個体数は少ない。高鉢山は県内唯一の既知産地であるが、現状は不明。

■**特徴**：体長13 mm、キスジトラカミキリとアカネトラカミキリの間のような形態をもっている。エゾエノキ大木の生えている天然林に近い林に生息。幼虫はエゾエノキ枯れ枝に侵入し、成虫は5-6月に出現する。

■**分布** 県内：鳥取市佐治町高鉢山南斜面。県外：広島県、岡山県、兵庫県、京都府；中華人民共和国。

■**保護上の留意点**：食樹であるエゾエノキを含む天然林を保護する必要がある。

■**文献**：81, 97, 153.

執筆者：山地 治

フサヒゲルリカミキリ 鞘翅目 (コウチュウ目) カミキリムシ科
Agapanthia japonica Kano, 1933

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧I類 (CR+EN)



岡山県川上村産(累代飼育品) 2002.6月/撮影：永幡嘉之

■**選定理由**：生息地が局限され、食草が特殊で、鳥取県内での現状が不明。

■**特徴**：藍色で、触角には黒いふさ状の毛束がある。出現期は6月。規模の大きな山地の乾性草原に生息し、成虫・幼虫ともにユウスゲを食草としており、成虫は葉を食べ花茎に産卵、幼虫は花茎から根に食べ進む。

■**分布** 県内：大山山系の乾性草原のみで、現状は不明。緊急に詳細な調査を実施する必要がある。東部の海岸や山地湿原に豊富に自生するユウスゲ群落は入念に調査したが、確認できない(永幡, 未発表)。県外：本州(日本固有種)。すでに国内の生息地は3カ所以下。

■**保護上の留意点**：生息地である草原の維持に際しては、幼虫の入った花茎を除去しないよう刈り取りの時期に留意すること、採集圧を防ぐこと、生息が確認された際には直ちに人工繁殖を併用して増殖をはかり、個体群の回復に努めること。

■**文献**：—

執筆者：永幡嘉之

ヒメビロウドカミキリ 鞘翅目 (コウチュウ目) カミキリムシ科
Acalolepta degener (Bates, 1873)

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



岡山県真庭市 2002.6.26/撮影：永幡嘉之

■**選定理由**：生息環境が特殊かつ不連続で、遷移進行により悪化している。ただし、既知生息地の氷ノ山での生息現状は不明。

■**特徴**：小型のカミキリムシで、褐色の地色に不規則なビロウド状の模様がある。夏季に出現し、オトコヨモギの生きた茎や葉脈を食べ、日中は葉陰に潜んでいる。幼虫も、オトコヨモギの茎を食べる。北日本では海岸の露岩地、中部地方以西では山地の乾性草原や平地の河川敷の攪乱を受けやすい環境に飛び石的に分布する。

■**分布** 県内：若桜町氷ノ山でオトコヨモギでの食痕の確認例があるのみ。隣接する兵庫県や岡山県には個体数の多い生息地が点在しており、県内でも中国山地の乾性草原には生息地が点在していることが予想される。現状把握が急務。県外：本州、九州、対馬；アジア北東部。

■**保護上の留意点**：分布調査が前提だが、生息が確認されたところでは、草原の適度な人為的管理が必要になると考えられる。

■**文献**：—

執筆者：永幡嘉之

アサカミキリ 鞘翅目 (コウチュウ目) カミキリムシ科

Thyestilla gebleri (Faldermann, 1835)

鳥取県：絶滅 (EX)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



ロシア沿海州 2006.7.5/撮影：永幡嘉之

- 選定理由**：食草の栽培中止とともに、生息環境が消失したため。
- 特徴**：中型のカミキリムシ。集落周辺の耕作地、他県では乾性草原や道路脇の草地に生息。成虫はアサやアザミ類の生茎や葉脈を食べ、幼虫もそれらの茎に食い入る。大麻の栽培に伴って各地に分布を広げたが、栽培中止とともに激滅。国内にはヨモギやノゲシに食性転換した個体群（在来の可能性もある）が局地的に生息しており、兵庫県でも生息地が知られるため、再び分布を拡大する可能性が皆無ではない。
- 分布 県内**：大麻を栽培した時代に若桜町で記録された。現在は絶滅。**県外**：本州・四国・九州；朝鮮半島・サハリン・ロシア極東部。
- 保護上の留意点**：本種の県内における生息は、アサの栽培に伴った移入（史前帰化）であった可能性があり、保全対象とする必要があるかどうかについては、今後議論が尽くされる必要がある。
- 文献**：—

執筆：永幡嘉之

スゲハムシ 鞘翅目 (コウチュウ目) ハムシ科

Plateumaris sericea (Linnaeus, 1768)

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



日野郡 2004.5.3/撮影：林 成多

- 選定理由**：生息地が孤立し、植生の遷移により絶滅する危険性が高い。
- 特徴**：金属光沢のある地色に点刻をちりばめる。本県では藍色、銅色、赤色の3型が基本。西日本では開水面を伴った湿原にのみ遺存的な分布を示す。成虫は晩春に湿原のスゲ類に集まり、花粉や葉を食べる。幼虫は水中で、根から酸素および栄養分を吸収して生育する。
- 分布 県内**：鳥取市国府町菅野、岩美町唐川、日野郡の湿原。未調査の湿原で生息地が発見される可能性はあるが、ごく少数であろう。**県外**：北海道、本州；ヨーロッパからシベリア。
- 保護上の留意点**：生息地が孤立して交流がないため、湿原の乾燥化や遷移が進めば絶滅する。湿原はいずれ遷移が進み消失するものであるが、周辺開発など人的要因によって遷移が加速した湿原では、ヨシやツルヨシの除去によって進行を止める対策も必要となる。湿原周囲の森林保全も重要。
- 文献**：—

執筆：永幡嘉之・林 成多

クロガネネクイハムシ 鞘翅目 (コウチュウ目) ハムシ科

Donacia flemola Goecke, 1944

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



成虫 日野郡 2004.5.22/撮影：林 成多

- 選定理由**：中国地方では2地域のみ記録があり、県内にそのうちの1カ所がある。生息地は狭い湿地で、消失のおそれが高い。
- 特徴**：体長6.5–7.0 mm前後。体型は細長く、肩が張り出す。全体に黒色で強い光沢がある。湿地に生息し、大型のスゲ属が寄主。成虫は葉の表面を食べ、幼虫は根を食べる。成虫は5月から6月に出現する。
- 分布 県内**：日野郡の1カ所。湿地化した水田で確認された。**県外**：本州；朝鮮半島、中国東北部、シベリア東部。
- 保護上の留意点**：湿地の保全。自然遷移により、湿地はいずれ陸化するため、中長期的なモニタリングが必要。
- 文献**：17, 21.

執筆：林 成多

ツヤネクイハムシ 鞘翅目 (コウチュウ目) ハムシ科
Donacia nitidior (Nakane, 1963)

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



成虫 広島県 2001.6.16 / 撮影：林 成多

■**選定理由**：山陰地方ではきわめて希少である。鳥取県内の産地は1カ所が知られるのみ。

■**特徴**：体長5.0–6.5mm前後。体型は細長く、肩が張り出す。全体に銅色の個体が多い。湿地に生息し、スゲ属が寄主。成虫は花粉を食べ、幼虫は根を食べる。成虫は5月から6月に出現する。

■**分布** 県内：日野郡の1カ所。湿地化した水田で確認された。県外：本州、佐渡。中国地方では山陽地方に生息場所が多い。

■**保護上の留意点**：湿地の保全。自然遷移により、湿地はいずれ陸化するため、中長期的なモニタリングが必要。

■**文献**：17, 21.

執筆者：林 成多

キンイロネクイハムシ 鞘翅目 (コウチュウ目) ハムシ科
Donacia (Donaciomima) japana Chujo & Goecke, 1956

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



成虫 鳥根県飯南町 2005.5.28 / 撮影：林 成多

■**選定理由**：寄主植物のミクリ属が希少である。鳥取県内の産地は1カ所が知られるのみ。

■**特徴**：体長7.0–9.0 mm前後。体型は細長く、肩が張り出す。全体に金銅色で、上翅に赤い縦条がある。ため池や湿地に生息し、ミクリ属が寄主。成虫は花粉や葉を食べ、幼虫は根を食べる。成虫は5月から9月に出現する。

■**分布** 県内：南部町。ミクリ属に注目してため池で調査を行えば、さらに多くの生息地が発見される可能性が高い。県外：本州、九州。島根県内では、各地に分布。

■**保護上の留意点**：ミクリ属の生えるため池の保全が必要である。

■**文献**：21.

執筆者：林 成多

ゴヘイニクバエ 双翅目 (ハエ目) ニクバエ科
Sarcophila japonica (Rohdendorf, 1962)

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



雌 佐賀県浜玉町虹の松原産 2007.10.7 / 撮影：祝 輝男

■**選定理由**：国内のおもに日本海側の海岸砂丘に生息する全国的な希少種。

■**特徴**：体長5–8 mmの小型のニクバエ。形態的特徴に乏しく、正確な同定には交尾器の確認が必要。他県では5月から11月までの間にハマゴウなどの海浜植物を伴う海岸部で成虫が確認され、魚やオキアミ、腐肉トラップ等が集まることが知られる。幼虫の寄主を含め、詳細な生態は明らかにされていない。県内での生息状況は不明。

■**分布** 県内：鳥取砂丘。県外：おもに日本海側の海岸砂丘部（北海道、新潟、石川、鳥取、島根、山口、福岡、佐賀）；ロシア極東部、韓国。

■**保護上の留意点**：海浜植物を伴った砂浜の保全。県下の海岸沿いに広く分布する可能性があるが調査は不十分。なお本種を含む県下のハエ目昆虫に関する知見は乏しく、基礎情報の蓄積が必要である。

■**文献**：9, 96.

執筆者：佐藤隆士